

7/11 オリーブを開発を新しい荒尾の産業に ～榊海行原オリーブモデル園開設～



▶オリーブの記念植樹。榊海行原地域から前嶋さん(右)、川上さん(左)、市から前畑市長(中)。

榊海行原地域で、オリーブモデル園の開設式が行われました。

この事業は、市の新たな産業の確立を目指して始まったもので、みかん、梨に代わる新たな特産品となることが期待されています。現在荒尾市には3千本のオリーブが栽培されています。苗の購入額の半額を助成する制度を一層活用してもらい、今後は1万本をめどに増やしていく予定です。開設式の後は、オリーブを使った料理の試食会もおこなわれました。

7/11~19 世界の若者、荒尾に集う ～9日間にわたって国際交流～



▶同NPO法人が制作した、被災地支援のTシャツを持つ前畑市長(中央)

NPO法人ワールドキャンパスインターナショナルの交流・学習ツアーで、オランダや中国など世界8カ国から大学生19人が本市を訪れました。学生が滞在していた9日間は、市内の国際交流団体「アッピーありあけ」と共に、自国の文化、ダンスや言葉を体験できるイベントを開催。地域住民の皆さんと交流を楽しみました。

このうち、前畑市長によるまちづくりに関する特別授業では、市の政策について質問が出され、活発な意見交換が行われました。

7/24 ありがとう、入坑5万5千500人！ ～万田坑来場者5万5千500人突破記念～



▶左から5万5千500人目の川元さん、最上さん、前田さん、マジックキーもお祝いに駆けつけました。

昨年4月に万田坑がグランドオープンしてから、来場者が5万5千500人を突破し、記念式典が行われました。

5万5千500人目の来場者は、鹿児島県始良市から訪れた大学生の、川元紀史さん。川元さんはこの日、荒尾市下井手出身で同じ大学に通う前田憲吾さんに誘われ、同大学の最上嵩之さんと3人で万田坑を訪れたということです。川元さんは「こんなことになるとは思わず、びっくりしました」と喜びを語っていました。

7/28 医療の現場を肌身で感じて ～市民病院で高校生の一日看護体験～



▶左から村上千鶴さん(専大玉名3年)、前田菜さん(文徳1年)、深浦さん(初めの血圧測定には四苦八苦)

市民病院で一日看護体験が行われ、高校生10人が参加しました。高校生はユニフォームに着替えて院内を見学した後、シーツ交換や患者さんの洗髪などを体験しました。

参加した文徳高校1年生の深浦知華さん(緑ヶ丘5丁目)は、「小学生の時に入院を経験してから、ずっと看護師か薬剤師のどちらかになりたいと思っています。今日は人に喜んでもらえて嬉しかった」と語り、目指す医療の仕事の現場を体験できたことに目を輝かせていました。

7/16 明るい社会を目指し、思いを語る ～社会を明るくする運動 弁論大会～



▶清里小6年 竹部遥さん 演題「大切なこと」

弁論大会が開催され、市内の小・中学校と高等学校の代表15人が文化センター小ホールで発表しました。

清里小学校6年生の竹部遥さんは、3月11日の震災が起こった時、東京に住んでいました。

とても怖い経験をしたが、家族や友だちの大切さを感じることができた。今は荒尾で生活しているが、今の生活を当たり前と思わず、毎日を大切に生きたい。としっかりと未来を見据えた眼差しで語ってくれました。

7/23 有害図書から青少年を守ろう ～市青少年育成市民会議が白ポスト点検～



▶JR荒尾駅前の白ポストを念入りに点検しているメンバー。

荒尾市青少年育成市民会議は、社会を明るくする運動の一環として、環境浄化・白ポスト点検を実施、有害図書やDVDを回収しました。

白ポストは、青少年に有害となるような性や暴力を扱った図書、DVDなどを青少年の目に触れさせないために投函するポストです。市内にはJR荒尾駅前、荒尾競馬場の場外馬券売り場、JR南荒尾駅前に設置されています。市民会議のメンバー約20人で、およそ100点の図書やDVDを回収しました。

7/31 2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 2000 荒高生が小学生に実験を手ほどき ～「荒尾塾」で理科実験教室～



▶理科の実験に真剣に取り組む小学生

「荒尾塾」は、市内の高校生と地域の皆さんが一体となった取り組みで教育環境を整備し、小中学生の学力などの向上を目指しています。

今回は、荒尾高校の協力で「わくわく！楽しい理科実験教室」が行われました。市内の小学生55人が参加し、「エタノールカーを走らせよう」「ドライアイスで遊ぼう」「非常時に備えようそく作り」「ウミホタルの発光」の実験メニューを体験しながら高校生たちと楽しく理科を学びました。

8/4 川にすむ身近な生物で環境を学ぶ ～関川で生物教室～



▶川に入って生物を探しました。何がいるのか、興味津々です。

岩本橋付近の関川で「生物教室」が開催され、荒尾市、南関町、大牟田市の児童36人が参加しました。

教室では、川の地形や川底の様子を調べたり、試薬を使って水質を調査したりしました。その後、児童たちは自分たちで捕まえた水生生物を分類し、水環境の評価を行いました。結果は昨年と同様「不快を感じない水環境」となりました。児童たちは、身近な生物の調査を通じて、環境について学びました。